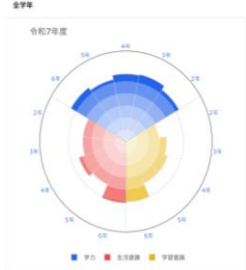


学校教育目標	
【学び合い 高め合い まちとともに明日を拓く豊岡っ子】 『知』 自ら、問題意識をもって追究し、主体的に学ぶ力を育てます。 『徳』 互いのよさや違いを認め合い、思いやりの心を育てます。 『体』 健康な生活を実践し、体力を高め、心身ともにたくましく生きる力を育てます。 『公』 「まち」と進んでかわかり、「まち」を愛する心を育てます。 『開』 多様な考えを尊重し、新たな価値に気付いて、共に行動しようとする子を育てます。	
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
<問題発見・解決能力> <自分づくりに関する力>	具体化した資質・能力
中期取組目標	
○子どもが主体となって「笑顔」「わくわく」「優しさ」がいっぱいの学校を創ります。 ・子どもの思いや願い、対話や協働を大切にした授業改善に取り組み、主体的に学ぶ力を育てます。 ・学習、生活の様々な場面で互いを認め合う活動を取り入れて、自分も相手も大切にする子を育てます。 ・進んで体を動かすことを楽しみ、健康的な生活を送るための生活習慣を育てます。 ・子どもが、豊かな体験を通して、まちを愛し、人・もの・ことに進んでかわかりようとする子を育てます。 ・一人ひとりを見取り、寄り添い、データも活用しながら子どものニーズに応じた教育活動を推進します。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①子どもの思いや願いを大切にし、子どもたちが学習の見通しをもち、協働的に学習を進めることができるようにする。②ICTやシンキングツールを活用しながら、資料や調査した事を整理したり、自分の考えを発信したりすることを大切にしてい。③生活・総合の研究を通して、まちの「人、もの、こと」を中軸に学習を行っていく。また、まちの「人、もの、こと」に対して子どもたち同士で意見や考えを出し合いながら学習を進めていくことができるように学年や部会で授業改善を図っていく。
担当	授業改善PJ

学力向上に関わる本校の状況
 ①R7年度の学力生活意識調査の結果から、各学年、市平均を上回る学力を身に付けていることが分かる。しかし、学力に対する意識については、各学年、どの教科も市平均を下回っている。「楽しさ」や「わくわく」といったものを授業から見出せる授業展開や構想を考えていかなければならない。 ②昨年度の校内研究から生活・総合の授業を通して我が校の児童が主体的に取り組む姿を多くみとることができた。しかし、主体的な個の学習や探究から、考えを共有したり語り合ったりして深い学びとする協働的な姿についてはまだ改善が必要である。児童が協働的に学びを進め、確かにする手立てを授業改善PJを中心全教職員で研究を進めていく。その中で協働的な学びを推進するためのICTやシンキングツールの活用を検討も行っていく。

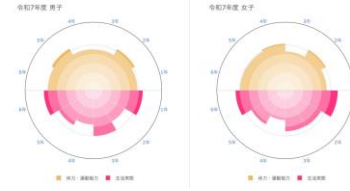
今年度の目標	
子どもたちが協働的に学び合い、見通しをもってわくわくしながら課題を解決していこうとする授業を目指す。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	①協働研究会を通して、教職員全体で「楽しい」や「わくわく」のある授業展開や構想について考えていく。その際、学校教育目標とも照らし合わせて6年間で育成する子どもの具体的な姿の共有を行う。 ②生活・総合、その他教科において、子どもの思考を整理し、協働的な学びを推進するツールとしてICT機器や、シンキングツールを活用していく。 ③生活・総合の研究を通して、まちの「人、もの、こと」を中軸に学習を行っていく。まちの「人、もの、こと」に対して繰り返しかわかり、個の気づき・疑問を子どもたち同士で語り合いながら全体の学習課題を作ったり調べて解決したりして、見通しをもち主体的に学習できるようにしていく。
下半期	①協働研究会では、生活科・総合的な学習の時間の授業を通して、本校の児童の学びの姿を教職員全体で共有していく。児童の実態の把握はもちろん、成果と課題、改善点や具体的な手立てについての分析をすすめていく。 ②ロイノートでの個人の考えの整理だけでなく、グループやクラスで考えを共有したり語り合ったりすることを促進するために、板書の工夫や、ICT機器やシンキングツールを活用していく。 ③生活・総合の研究を通して、まちの「人、もの、こと」を中軸に学習を行っていく。まちの「人、もの、こと」に対して繰り返しかわかったり、自分たちの課題や深めたいことについて考えを共有したり語り合ったりして、協働的に学習を進められるように授業改善を図る。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①たてわり活動やペア学年活動による異学年交流をより充実させることで、相手を思いやる心を育む。②子ども会議のテーマについて話し合い、子どもの意見を積極的に取り入れることで、「誰もが」「安心して」「豊かに」過ごせる学校づくりを推進する。③あいさつや返事、適切な言葉遣いについて大切さを繰り返し伝えるとともに保護者や地域と連携を図りながら指導していく。
担当	心の安心PJ
豊かな心に関わる本校の状況	
R7年度生活意識調査の「自分にはよいところがあると思いますか」という質問では、概ね全学年が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童が市の平均を下回っていた。このことから、本校児童の自己肯定感が低い傾向があるという実態が見えてきた。 「相手の立場になって、その人の気持ちを考えるようにしていますか」の質問に対して「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童が、どの学年も市の平均より低い傾向にあり、相手の気持ちを考えるということを意識している児童が少ないことがわかった。教職員の実態からも、相手に対して無関心な児童が多い、という実態があることも分かっている。 ※R7年度 生活意識調査結果 3年の例 	
今年度の目標	
たてわりや学年学級等の集団の中で、子ども同士がよりよく関わることを目指して、教育活動を計画する。自他のよさを見つけられるような場面を設定するとともに、一人ひとりが自己有用感を感じられるよう、児童の活動に対して価値づけをする。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	①たてわり活動を通して異学年の子ども同士が顔と名前を互いに覚え、よりよく関わるができるようにする。その上で、相手を思いやる気持ちをもって接している高学年の行いや、児童同士のよりよい関わりを教師が価値づけし、自己有用感が高まるようにする。 <子ども同士のよりよい関わりをねらう具体的場面> ・体力テスト ・たてわり遊び ・ペア遊び ②重点研究として生活科・総合的な学習の時間の研究を行う。年間を通して、児童の思いや考えを大切にした単元づくりを計画する。 ③学校の全教育活動を通して、自分の思いや考えを表現し、それを認め合う場を設定する。係活動、委員会活動等の活動では、活動する姿を見て教師が価値づけをし、やってよかった、という思いをもつことができるようにする。
下半期	①たてわり活動やペア学年活動を通して異学年の子ども同士がよりよく関わるができるようにする。その上で、相手を思いやる気持ちをもって接している高学年の言動や、子ども同士のよりよい関わりを教師が価値づけし、自己有用感が高まるようにする。 <子ども同士のよりよい関わりをねらう具体的場面> ・全校ハイキング ・たてわり遊び ・ペア学年での学習活動 ②横浜子ども会議の取組で「いじめ」について話し合う活動を設定する。その中で、いじめの未然防止や再発防止についての子ども達の意見を取り入れ、「豊岡小学校いじめ防止基本方針」、に反映する。学校全体で相手を思いやる風土やいじめを許さない風土を醸成する。 ③重点研究として生活科・総合的な学習の研究を行う。年間を通して、子どもの思いや考えを大切にした学習を進める。また、学校の全教育活動を通して、自分の考えや思いを表現し、それを認め合う場を設定する。係活動や委員会活動等では、思いをもって活動する姿を教師が価値づけし、やってよかったという思いをもつことができるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康・安全教育	①データを活用し、年間を通した体力づくりを推進するために、運動に慣れ親しむ機会を増やす。②校医との連携を図り、歯・口の健康づくりを推進し、自らの健康についての意識を高める。③栄養分野についての理解を深め、自らバランスの取れた食事をとれるよう、栄養教諭を中心に食育を推進する。④防災訓練や交通安全の取組を通して、自ら安全に行動できる力を育む。
担当	健康・安全PJ

健やかな体に関わる本校の状況
令和7年度横浜市体力・運動能力調査 【横浜市との比較】  ①体力テストの結果について、全国・横浜市平均と比べても、運動に親しむ機会や時間が少なく、実施したテストの結果は低いものになっている。運動に取り組める場や機会が少ない現状があり、改善が必要である。 ②歯科校医と連携し、定期健康診断・臨時健康診断を実施した。アンケート調査に加えて、歯磨き検査と、必要な児童には歯磨き指導を行うなど、健康診断の充実を図った。R6年度はむし歯のない者の率が81.3%でR5年度の79%よりも上昇した。また、家族とともに歯みがき検査や歯みがきカレンダーを行い、地域全体の口腔内の衛生意識の向上に努めている。全校児童がたてわり活動の中で、学校保健委員会に参加し、健康への意識を高めた。

今年度の目標	
自分の体や健康について興味をもち、健康意識を高め、進んで活動したり運動したりする習慣をつける。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	①運動に親しむ機会や場所を作る。休み時間に校庭で、縄や持久走などに親しむことができるように、委員会活動を中心に企画、活動し安全に楽しく運動に親しめる活動を推進する。②歯科校医と連携し、健康診断前に保護者へ問診を行う形で健康相談を実施し、定期健康診断の充実を図る。さらに、今年度も1年生を対象に鶴見大学の学生によるブラッシング指導を行う。歯を大切に作る週間に取り組み、意識を向上させる。引き続き、PTAの協力のもと、歯みがき手帳の作成、家族歯みがきカレンダーを実施する。③教科における取組として、4年生は、体育科（保健領域）、5、6年生は家庭科において栄養分野について学習する。給食時間等の取組として、食に関するおたよりを毎日各クラスに配布する。また、栄養に関するTV放送をしたり、委員会児童による啓発活動を行ったりする。また、毎月、各学年で食育教材の「バランスイナワーク」に取り組む。④防災訓練や交通安全推進校の取組を活用した交通安全の取組を通して、自ら安全に行動できる力を育む。
下半期	①運動に親しむ機会や場所を作る。休み時間に校庭で、全校児童が集まり、長縄やダンス、持久走などに親しむように「スポチャレ」に取り組む。委員会活動を中心に企画、運営し安全に楽しく運動に親しめる活動を推進する。②歯科校医と連携し、検診前に保護者へ問診票をとり、健康相談を実施する。歯磨きが難しくなる4年生には横浜市歯科衛生士によるブラッシング指導を行う。引き続き、PTAの協力のもと、歯みがき手帳の作成、家族歯みがきカレンダーを実施する。また、歯科校医の職員研修を実施する。③教科における取組として、4年生は、体育科（保健領域）、5、6年生は家庭科において栄養分野について学習する。給食時間等の取組として、食に関するおたよりを毎日各クラスに配布する。また、栄養に関するTV放送をしたり、委員会児童による啓発活動を行ったりする。そして、毎月、各学年で食育教材の「バランスイナワーク」に取り組む。6年生はお祝い給食で6年間の食育のまとめをする。④地震や火事の防災訓練や昨年度の交通安全推進校の取組を活用した交通安全の取組を充実していく。交通安全学習では、企業と連携した取組を実施し、子ども自身が自ら安全に行動できる力を育む。